

## 編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌  
編集委員長  
西 信 雄

会員の皆様には、平素より本誌の発行につきましてご協力をいただき感謝申し上げます。編集委員会では、公衆衛生的意義のある論文を皆様にお届けできるよう日々審査を行うとともに、投稿数の増加や内容の充実に向けて取り組んでいます。また、編集委員は本年1月に、査読委員は本年4月に約半数が交替し、新たな体制となりました。本号では以下についてお知らせします。

### 1. 投稿・掲載の状況

昨年（2017年）の1年間に投稿された論文数は96編、同期間に採用された論文数は46編でした。投稿数と採用数から単純に採択率を計算すると48%になります。また、2017年の64巻に掲載された論文数は採用数と同じ46編（会員の声2編を除く）、種類の内訳は論壇1編、総説3編、原著29編、公衆衛生活動報告4編、資料9編であり、原著が過半数を占めていました。2016年の63巻に掲載された46編のうち原著は20編でしたので、掲載論文数の2割程度を占める論文が新たに原著として掲載されるようになったと考えることもできます。なお、短報と研究ノートは2015年11月に廃止されています。

64巻4号の編集委員会からのお知らせでもお伝えしておりますように、原稿の種類については基本的に審査の過程で編集委員会から変更を求めることはいたしません。投稿に当たっては、投稿規定等を十分に確認した上で原稿の種類をお選びくださるようお願いいたします。

### 2. 発表演題推薦カード

第75回（大阪）および第76回（鹿児島）の総会で、一部の発表者に発表演題推薦カードをお渡ししました。これは、編集委員会のメンバーが発表演題を拝見して、会員に有用な発表であり、学会発表で終わらせずに本誌に論文として投稿いただきたいという趣旨で推薦したものです。具体的には、名刺大のカードに演題番号と原稿の種類を編集委員名とともに記入してお渡ししています。多くの場合、一般演題の口演発表あるいは示説発表の時点で原稿が完成しているわけではありませんので、あくまで発表演題をもとに推薦しており、通常の査読が行われることを了承いただければと思います。それでは推薦されてもあまりメリットがないというように思われるかもしれませんが、事務局からリマインドをいたしますし、実際に推薦されることによって奮起され、論文の採用に至ったケースもありますので、推薦された場合は是非その機会を活用いただきたいと思います。

### 3. 優秀論文賞

こちら第75回（大阪）および第76回（鹿児島）の総会で行ったもので、64巻4号の編集委員会からのお知らせでもお伝えしておりますが、総会の前年（2015年および2016年）の全掲載論文から各3編を表彰しました。これまで表彰の基準を公開しておりませんが、編集委員会としては本誌の公衆衛生的意義を高める論文や、会員の今後の公衆衛生活動を活性化するような論文を選定するように努めています。受賞論文のリストを学会のHPに掲載しておりますので、あらためて論文をご覧いただければ幸いです。なお、本年10月の第77回総会（福島）で表彰する論文は昨年の第64巻の全掲載論文が対象となります。皆様、奮って投稿いただきますようお願い申し上げます。